

就職活動での利用を想定した学習成果物管理手法の提案

中村 祐基[†] 中島 裕聡[‡] 高木 正則[†] 山田 敬三[†] 佐々木 淳[†]
 岩手県立大学ソフトウェア情報学部[†] 岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科[‡]

1. はじめに

近年の大学教育においては、学生の能力について多面的な評価を行うことが重要と考えられるようになり、学習活動のプロセスを含めた学習成果物や学習履歴データ（以下、成果物）を電子的に記録できる e ポートフォリオが注目されている¹⁾。既存の e ポートフォリオでは成果物を蓄積して学生自らがその成果を振り返ることや、教員に成果物を公開して評価を得ることができる。しかし、学生が主体的に継続して e ポートフォリオを活用することは難しいと言われている¹⁾。そこで、e ポートフォリオに蓄積された成果物の有効的な活用方法として就職活動に着目した。経済団体や所轄官庁、関連企業は個々の企業に対して、学生にわかりやすく求める人材像を発信することを積極的に推進している²⁾。企業の求める人材像から抽出した能力（以下、求める能力）をもとに成果物の蓄積を行い、蓄積された成果物を就職活動時に活用することにより、学生はエントリーシートや履歴書作成等の振り返りを支援できる。また、蓄積された成果物はそれぞれの企業が求める能力に関連していることから、企業はこれらの成果物を選考時の判定資料として活用することで、求める人材を適切に採用できる。

本研究では e ポートフォリオと連携し、蓄積された成果物を就職活動へ活用することを目的とし、成果物と企業が求める能力の関連付け手法を提案する。本稿では本システムの概要について紹介する。

2. 提案システムの概要

2.1 成果物の蓄積

成果物の蓄積の利用イメージを図 1 に示す。
 ③企業が求める人材像が記載されている企業のホームページから求める能力を抽出する。⑥学

生が成果物を e ポートフォリオへ蓄積する際には、この能力をメタ情報として付与する。

図 1 に示す企業 DB は企業が求める人材像などの企業情報を蓄積する。この企業情報から、Yahoo! で提供しているキーワード抽出 API を用いて特徴語を抽出する。抽出した特徴語の中から企業が求める能力を DB に蓄積する。また、能力 DB の内容を成果物蓄積の際にメタ情報として付与するときに用いる。プロトタイプシステムでは本学の過去 3 年間の学部就職先を対象とした。e ポートフォリオに蓄積する成果物と付与する能力の例を表 1 に示す。

表 1 蓄積する成果物と付与する能力の例

抽出される能力	蓄積する成果物
積極性	インターンシップ報告書
コミュニケーション能力	各ミーティングの議事録 学外者とやり取りしたメールの本文
向上心	各種セミナーへの参加記録
人間性	自己紹介文
チャレンジ精神	学会発表資料 各種コンテストの応募記録

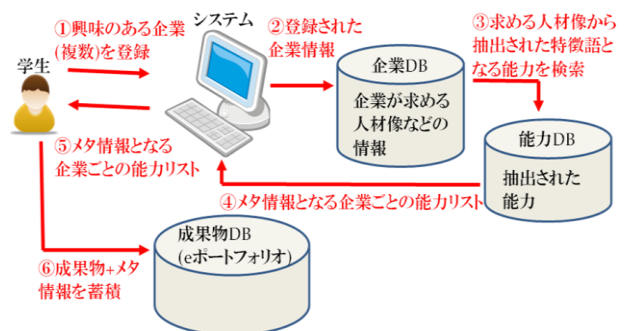


図 1: 成果物蓄積の利用イメージ

2.2 成果物の検索

成果物の検索の利用イメージを図 2 に示す。
 ⑥選考を受ける企業が求める能力に関連した、成果物を抽出（フィルタリングと概略化）する。本研究において、アピールできる成果物を抽出

Proposal on an Electronic-Learning-Evidence Management System to Use by Job Hunting Process

Yuki NAKAMURA[†], Hirotohi NAKAJIMA[‡], Masanori TAKAGI[†], Keizo YAMADA[†], Jun SASAKI[†]

[†]Faculty of Software and Information Science, Iwate Prefectural University

[‡]Iwate Prefecture University, Graduate School of Software and Information Science

する際に、eポートフォリオに蓄積されている成長要因、自己評価、他者評価の3つを参考とする。

成長要因とは、個人が自身の成長に繋がったと判断したコンテンツと定義し、何気ない気付き情報や日々の活動を記録しているソーシャルメディアから学習成果物作成時の思考過程や感情、他者からの気づき情報を取得して判断されたものとする³⁾。

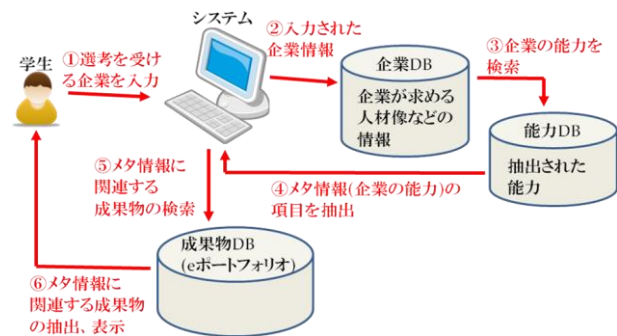


図2：成果物検索の利用イメージ

後、成果物の蓄積を行う。成果物の蓄積の際に、事前登録した企業の能力DBからメタ情報として成果物に付与する能力が、図3の右で示す画面のように示される。ユーザはその能力の中から成果物に適切と思われる能力を選択し、成果物にメタ情報として付与する。メタ情報を付与した成果物をeポートフォリオに蓄積することで成果物蓄積の支援となる。

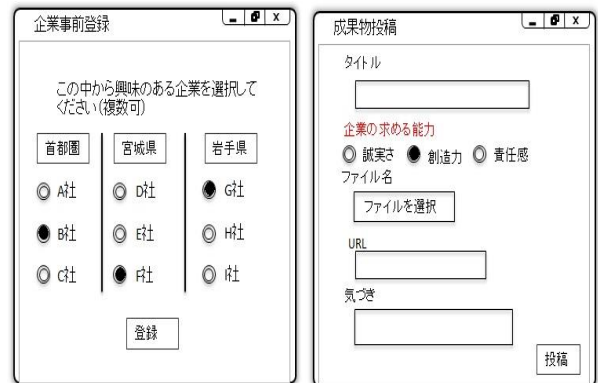


図3：企業事前登録と成果物投稿の画面例

3. プロトタイプシステムの開発

本研究の有効性を確認するため、著者が所属する研究室での利用を前提としたプロトタイプシステムを開発した。開発環境を表2に示す。開発状況としては、成果物蓄積機能の開発段階である。

表2 開発環境

Webサーバ	Apache 2.2
DBMS	MySQL 5.5
Script	Ruby 1.9
フレームワーク	Ruby on Rails 3.2

3.1 能力DBの構築

2.1節で示した方法で、調査及び抽出した企業が求める能力を事前にDBに格納する。構築した能力DBの例を表3に示す。

表3 A社とB社の能力DB

A社の求める能力	B社の求める能力
誠実さ	連帯感
創造力	協調性
責任感	コミュニケーション力
行動力	意識
チャレンジ精神	実力

3.2 成果物の蓄積

ユーザが最初に成果物の蓄積を行う際に、図3の左で示す画面のように複数の企業から興味がある企業を選択し事前の登録を行う。事前登録

3.3 成果物の振り返り

成果物の振り返りをユーザが行う際は、選考を受ける企業を1つ選択する。選択された企業の能力DBの項目がメタ情報として付与されている成果物を検索、抽出する。抽出された成果物の中で成長要因となっている成果物、自己評価の入力の有無、他者評価の入力の有無を考慮し、ユーザに表示することで成果物の振り返りを支援する。

4. おわりに

本稿では、企業の求める人材像から得られる求める能力をもとに蓄積した成果物を、就職活動に活用するためのeポートフォリオと連携した就職活動支援システムを提案した。

今後は、DBに蓄積されていない企業や能力の登録方法や、抽出した能力の表記ゆれについて検討する。また、検索された成果物の概略化方法についても検討する。

参考文献

- 1) 森本康彦：eポートフォリオの理論と実際，教育システム情報学会誌，Vol. 25, No. 2, pp. 245-263 (2008)
- 2) 岩崎暁，西久保日出夫：大学新卒者採用における「求める人材像」の業種別傾向に関する研究—企業ウェブサイトの発信メッセージ分析を通して—，コミュニケーション科学，Vol. 35, pp. 179-207 (2012)
- 3) 中島裕聡，高木正則，山田敬三，佐々木淳：eポートフォリオからの成長要因抽出支援システムの開発，情報処理学会第75回全国大会，pp. 4-649-4-650 (2013)